富山大学研究データポリシー

令和7年3月6日制定

富山大学（以下「本学」という。）は、教育・研究等における環境の激しい変化に対応し、データ及びデジタル技術を活用して、ステークホルダや社会のニーズを基に、教育・研究を変革すると共に、それらを支援する組織、業務、プロセス等を変革し、大学としての新たな価値を創造するため、本学における研究データの保存・管理及び公開・利活用に関する基本方針を示した研究データポリシーを以下のとおり定める。

1. 研究データの定義

本ポリシーが対象とする研究データは、本学における研究活動において収集又は生成された情報を指し、デジタルか否かを問わない。

2. 研究者の定義

本ポリシーが対象とする研究者は、本学の職員のうち職務として研究に携わる者（過去に携わっていた者を含む。）及び専ら本学の施設・設備を使用して研究する者をいう。

3. 研究者の権限と責務

3-1. 研究データの保存・管理

研究者は、法令や関係する学内外の規則等を遵守し、研究データを適切に保存・管理する。

3-2. 研究データの公開・利活用

研究者は、自らが保存・管理する研究データについて、公開・利活用を促進するよう努める。ただし、法令、関係する内外の規則等で制限されるものを除く。

3-3. 方法

研究者は、研究データの保存・管理方法及び公開・利活用の方法を自ら決定できる。その際、研究データの機械可読性、相互運用性等に配慮する。

4. 大学の責務

本学は、研究データの保存・管理及び公開・利活用を支援する環境の整備を推進する。

附 記

このポリシーは、令和7年4月1日から実施し、存在する研究データから適用する。

富山大学研究データポリシー 解説

富山大学（以下「本学」という。）は、教育・研究等における環境の激しい変化に対応し、データ及びデジタル技術を活用して、ステークホルダや社会のニーズを基に、教育・研究を変革すると共に、それらを支援する組織、業務、プロセス等を変革し、大学としての新たな価値を創造するため、本学における研究データの保存・管理及び公開・利活用に関する基本方針を示した研究データポリシーを以下のとおり定める。

- ・ 富山大学が目標として掲げる「地域と世界に向けて先端的研究情報の発信」「地域と国際社会への貢献」の趣旨及び大学DX基本方針に基づき、研究データポリシーを定める。
- ・ 「第6期科学技術・イノベーション基本計画」（閣議決定 令和3年3月26日）では、「機関リポジトリを有する全ての大学・大学共同利用機関法人・国立研究開発法人において、2025年までに、データポリシーの策定率が100%になる。公募型の研究資金の新規公募分において、2023年度までに、データマネジメントプラン（DMP）及びこれと連動したメタデータの付与を行う仕組みの導入率が100%になる」とされている。
- ・ 「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」（統合イノベーション戦略推進会議令和6年2月16日決定）では、「公的資金のうち 2025年度から新たに公募を行う即時オープンアクセスの対象となる競争的研究費を受給する者（法人を含む。）に対し、該当する競争的研究費による学術論文及び根拠データの学術雑誌への掲載後、即時に機関リポジトリ等の情報基盤への掲載を義務づける」とされている。

1. 研究データの定義

本ポリシーが対象とする研究データは、本学における研究活動において収集又は生成された情報を指し、デジタルか否かを問わない。

- ・ 対象とする研究データは、本学における研究活動において収集又は生成された次のもので、数値、画像、テキスト等、あらゆる形態を含み、媒体はデジタルか否かを問わない。ただし、授業において学生が収集又は生成した研究データは対象外とする。
 - 1) 研究素材として収集又は生成・観測された一次データ
 - 2) 一次データ等を加工して生成されたデータ及び一次データを分析・処理して作成されたデータ
 - 3) 上記データの収集又は生成の段階で作成された記録（実験ノート、フィールドノート、調査票等）
 - 4) 外部へ発表した論文、報告等の研究成果に関するものの根拠データ
 - 5) 博士論文に関する根拠データ
 - 6) データベース等の知的財産に該当するもの
 - 7) 上記データを説明する資料

2. 研究者の定義

本ポリシーが対象とする研究者は、本学の職員のうち職務として研究に携わる者（過去に携わっていた者を含む。）及び専ら本学の施設・設備を使用して研究する者をいう。

- ・ 本ポリシーは、本学において研究活動を行う全ての研究者（役員、職員、学生等）に適用する。
- ・ また、研究データにかかる研究者の役割を次のとおり定義する。
 - 1) 作成者
研究データを収集又は生成、加工、解析等した研究者
 - 2) 研究データ管理責任者
研究データの適正な管理について責任を持つ研究者又は研究データの管理権限について委譲を受けた研究者

3. 研究者の権限と責務

3-1. 研究データの保存・管理

法令、関係する学内外の規則等を遵守し、研究データを適切に保存・管理する。

3-2. 研究データの公開・利活用

自らが保存・管理する研究データについて、公開・利活用を促進するよう努める。ただし、法令、関係する内外の規則等で制限されるものを除く。

3-3. 方法

研究データの保存・管理方法及び公開・利活用の方法を自ら決定できる。その際、研究データの機械可読性、相互運用性等に配慮する。

研究者の権限

- 1) 作成者及び研究データ管理責任者は、本学が定める規程等において特段の定めがある場合を除き、自身の研究データを利用する権限及び研究データの保存・利用条件をコントロールできる権限（以下、研究データ管理権限という。）を有するものとする。
- 2) 研究データ管理責任者は、研究プロジェクトの研究データ管理を統括し、研究プロジェクトの研究データ管理権限を有するものとし、研究データ管理権限を本学の他の研究者に両者の合意の下、移譲することも可能とする。

管理・保存

- 1) 研究者は、自身の研究プロジェクトにおいて研究データを管理する研究組織及び研究データ管理責任者を明確にしなければならない。
- 2) 研究データ管理責任者は、研究中及び研究後の研究データの適正な管理方法や保存、利用に関する方針及び権限等について、共同研究を行う本学以外の研究者も含め、研究組織で事前に協議して合意を得ておく。
- 3) 作成者及び研究データ管理責任者は、研究データの信頼性、再現性、トレーサビリティ等、研究データの品質確保に努める。
- 4) 研究データ管理責任者の下、作成者は研究中、研究データを安全に保管しなければならない。また、研究データの管理・保管で、学外のクラウドサービスを利用する場

合、学内の情報セキュリティ関連規則の条件を満たすストレージサービス（GakuNinRDM等）を利用するものとする。

- 5) 研究データ管理責任者の下、作成者は、研究終了時に、研究終了後も保存する研究データと破棄する研究データに分類の上、破棄する研究データについては適正に破棄しなければならない。特に、個人情報保護・機密保持等の観点から公開に制限がある場合や、公開によって第三者の権利を侵害する恐れのある研究データは、適正に保存するか、又は適正に破棄しなければならない。
- 6) 保存する研究データの範囲及び保存期間は、「富山大学における研究データの保存等に関する指針」及び他の規程等で特段の定めがある場合、それに従うものとする。また、各分野における法的及び倫理的要件並びに研究者コミュニティ及び部局等での標準等を鑑みて、研究データ管理責任者が決定するものとする。
- 7) 作成者及び研究データ管理責任者は、研究データを、検索可能かつ必要に応じて再利用が可能な形で保存しなければならない。
- 8) 保存期間の過ぎた研究データは、研究データ管理責任者が破棄、移譲又は公開等を決定し、適正に実施する。
- 9) 研究データ管理責任者は、研究プロジェクトが終了した場合又は自身が退職等により本学に所属しなくなった場合、関係者と協議の上、研究データ管理権限を学内の適切な研究者に移譲するか、又は作成者が保持し続けるかについて決定し、実施しなければならない。
- 10) 9)の研究データ管理権限を移譲する手続き、あるいは作成者が保持し続けることができない研究データに関しては、本学は在籍している研究者に研究データ管理権限を引き継ぐように指示できる。
- 11) 研究データの管理・保存について、1)から10)に関わらず、法令、各研究に関する契約、本学の規程等に特段の定めがある場合は、その定めに従う。加えて、各研究に関係する諸団体において研究倫理規程等に特段の定めがある場合は、その定めに従う。

・ 公開・利活用

- 1) 研究データは、オープン・アンド・クローズ戦略の判断に基づいて適切に公開するものとし、公開に際してはFAIR原則に則ることを基本とする。
- 2) 研究データの公開の適否は、1)の考え方を踏まえた上で、わが国の安全保障及び本学の研究競争力と研究データ公開による国際的貢献とのバランスを考慮し、各分野における法的及び倫理的要件並びに研究者コミュニティ及び本学での標準等を鑑みて、研究データ管理責任者が判断する。
- 3) 知的財産に該当する（またはこれに準じる価値を有する）研究データについては法令及び本学の知的財産関連の規則を遵守する。
- 4) 個人情報保護・機密保持等の観点から公開に制限がある場合及び公開によって第三者の権利を侵害する恐れのある場合は、非公開（公開対象外）とする。
- 5) 非デジタル形式の研究データは、管理・公開のため可能な限りデジタル化することを推奨する。この場合のデジタル化は、研究データの現物そのものをデジタル化する方法と、現物の所在等を示すメタデータをデジタル化する方法がある。

- 6) 研究データを公開する際には、適切なライセンス情報を付し、利用者にはその遵守を求めるものとする。また、必要に応じて、利用条件を規定することが望ましい。
- 7) デジタル形式の研究データの公開に際しては、本学機関リポジトリや、信頼できるデータリポジトリを利用することを推奨する。また、公開する場合には、将来的な研究において制約を受けることがないように注意する。
- 8) 研究データの公開について、1) から7)に関わらず、共同研究契約等、特段の定めがある場合は、その定めに従う。

4. 大学の責務

本学は、研究データの保存・管理及び公開・利活用を支援する環境の整備を推進する。

責務の詳細

- ・ 本ポリシーに従って、研究者が適正な研究データ管理・公開を実現できるよう、本学は、研究データ管理・公開に関する周知、教育研修を実施し、環境の整備を推進する。
- ・ 本学は、研究者の適切なデータマネジメントプラン（DMP）策定・実施及び、これと連動したメタデータの付与を支援する。また、研究者が学術論文及び根拠データを公開する際に必要な支援を行う。

なお、本ポリシーの主旨を尊重した上で、部局等が、分野の特性等に応じて研究データ管理・公開に関して独自の規程等を策定することは、これを妨げない。

本ポリシー及び解説の内容は、社会状況や学術状況の変化あるいは法及び倫理的要件の変化に応じて、適宜見直しを行う。

参考：FAIR原則（和訳）

- To be Findable: (見つけられるために)
 - F1. (メタ) データが、グローバルに一意で永続的な識別子 (ID) を有すること。
 - F2. データがメタデータによって十分に記述されていること。
 - F3. (メタ) データが検索可能なリソースとして、登録もしくはインデックス化されていること。
 - F4. メタデータが、データの識別子 (ID) を明記していること。
- To be Accessible: (アクセスできるために)
 - A1. 標準化された通信プロトコルを使って、(メタ) データを識別子 (ID) により入手できること。
 - A1.1 そのプロトコルは公開されており、無料で、実装に制限が無いこと。
 - A1.2 そのプロトコルは必要な場合は、認証や権限付与の方法を提供できること。
 - A2. データが利用不可能となったとしても、メタデータにはアクセスできること。
- To be Interoperable: (相互運用できるために)
 - I1. (メタ) データの知識表現のため、形式が定まっていて、到達可能であり、共有されていて、広く適用可能な記述言語を使うこと。
 - I2. (メタ) データがFAIR原則に従う語彙を使っていること。
 - I3. (メタ) データは、他の(メタ) データへの特定可能な参照情報を含んでいること。
- To be Re-usable: (再利用できるために)
 - R1. メタ(データ) が、正確な関連属性を豊富に持つこと。
 - R1.1 (メタ) データが、明確でアクセス可能なデータ利用ライセンスと共に公開されていること。
 - R1.2 (メタ) データが、その来歴と繋がっていること。
 - R1.3 (メタ) データが、分野ごとのコミュニティの標準を満たすこと。

(Licensed under a Creative Commons表示4.0国際license ©2019国立研究開発法人科学技術振興機構バイオサイエンスデータベースセンター)

NBDC研究チーム (訳) FAIR原則(「THE FAIR DATA PRINCIPLES」和訳) (2019).

<https://doi.org/10.18908/a.2019112601>

出典：FORCE11: THE FAIR DATA PRINCIPLES (2016).

<https://www.force11.org/group/fairgroup/fairprinciples>